



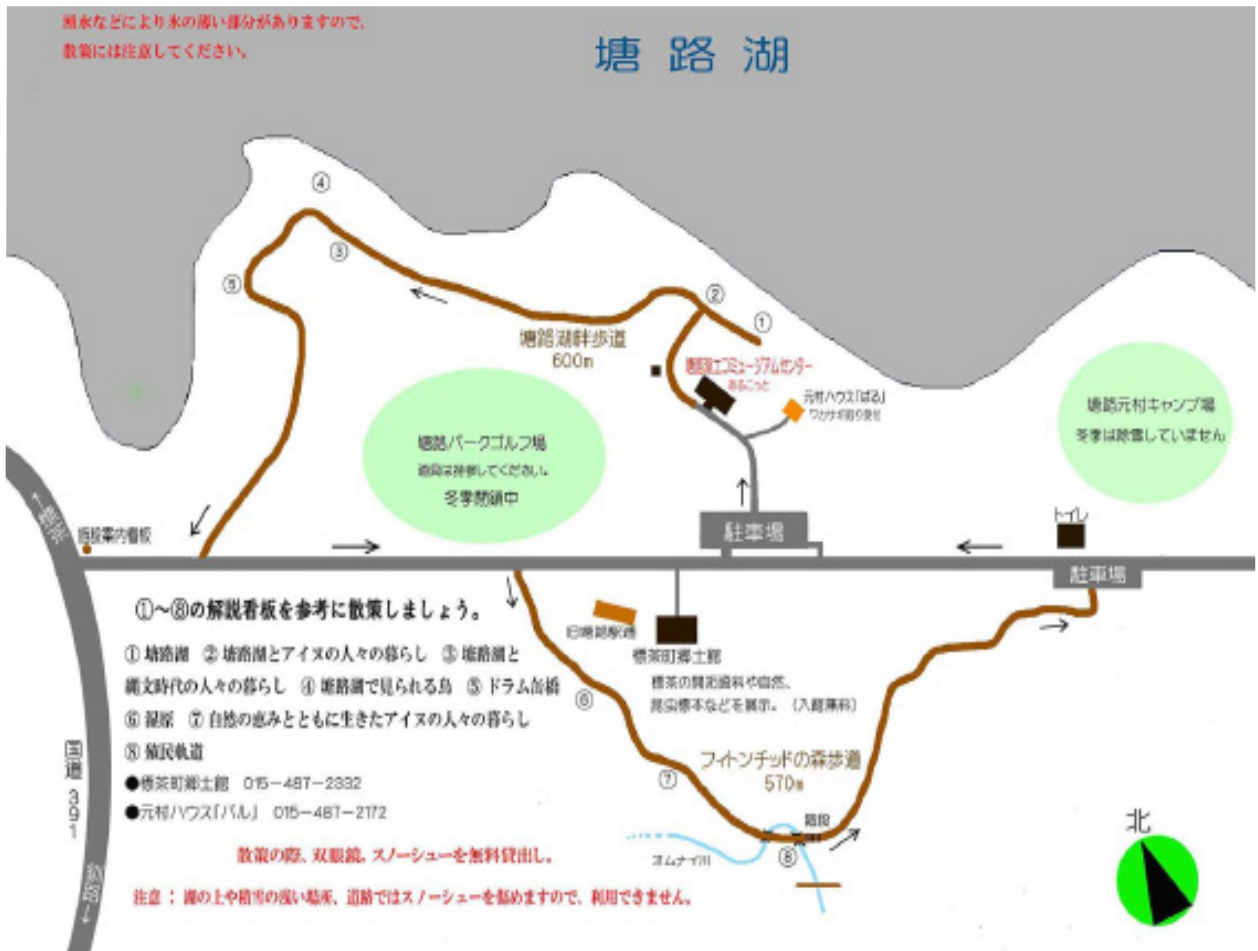
厳冬の釧路川

新年を迎えた釧路湿原は、ひっそりとした静寂に包まれて純白の世界を作っていた。釧路川を見に行くと、雄大な川面を氷の花が静かに押し流され、軋むような小さな音を立てて大海に向かって流れていく。

エゾシカたちは雪の下からわずかに得られる食物を見つけては、仲間たちと場所を分かち合っていた。

植物たちは、来る春に向けて、静かに準備を進めているのだろう。

長く厳しい冬は、まだ始まったばかりである。



塘路フィールドノート【12/15～1/14】

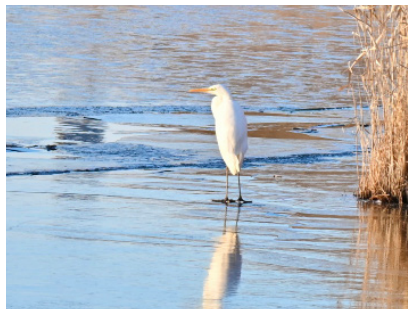
【野鳥】

厳冬期を迎えた釧路湿原では、野鳥も体力を温存しながら、見つけづらくなった食べ物を求めて懸命に生きていた。氷のない流入部では水辺の野鳥たちが順番待ちをしているのかのように集まっていた。



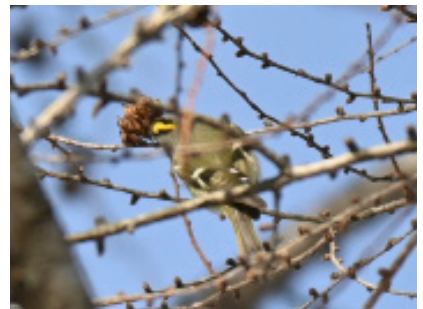
タンチョウ (クチョロ線)

成鳥を先頭に飛来した群れ。亜成鳥(上)と昨年生まれた幼鳥(右下)。ツル科



ダイサギ (シラルトロ湖)

結氷した湖面の上に佇んでいた。解けた流入部で順番待ちをしているのかな？サギ科



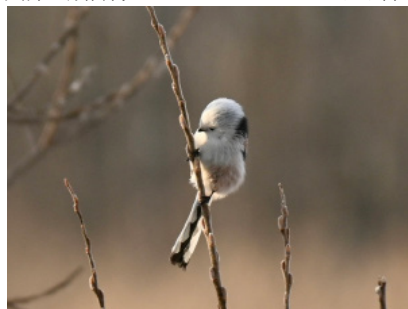
キクイタダキ (塘路湖畔)

頭に菊の花びらのような斑があることからその名がついたとされる。キクイタダキ科



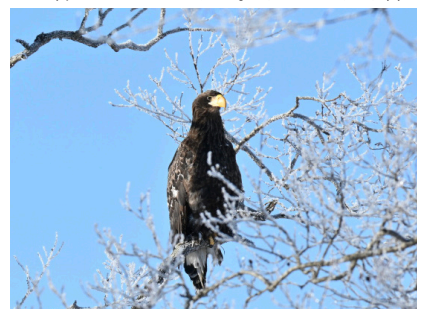
エゾフクロウ (釧路湿原)

夜行性のため日中は洞で寝ている。日本のフクロウは5亜種に分けられるという。フクロウ科



シマエナガ (塘路湖畔)

カラ類と行動を共にし、ヤナギの冬芽を食べていた。エナガの北海道亜種。エナガ科



オオワシ (釧路湿原)

寒くなり個体数が増えてきた厳冬期を告げるワシ。この個体は亜成鳥。タカ科

【植物】

寒く厳しい冬は植物たちにとって、春に新緑を輝かせるための準備の季節。彩りの少ない季節ではあるが、その冬芽の中では、着実に春の準備が成されている。華やかな花や新緑の季節が待ち遠しい。



エゾヤマザクラ冬芽 (蝦夷山桜)
尖った卵形の冬芽が特徴。これから春に向けてゆっくりと膨らんでいく。バラ科。



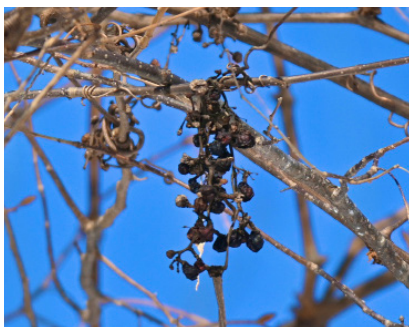
カラマツの球果 (唐松・落葉松)
小さな松ぼっくりを沢山つける。多くの野鳥が好んで食べにくる。マツ科カラマツ属。



ホザキシモツケ (穂咲下野)
夏は湿原をピンクの花で彩るが、冬には花の穂を残したまま静かに種子を散らす。バラ科



ハシドイ (丁香樹)
釧路市の木。冬は特徴的な実殻と小さな冬芽が目立つ。モクセイ科



ヤマブドウの果実 (山葡萄)
既に実も枯れて種子を残すのみの果実。瑞々しい果実の季節が待ち遠しい。ブドウ科。



ツルウメモドキ (蔓梅擬)
秋に黄色と赤のコントラストが美しい実が華やかだが、そろそろ地に落ちそう。ニシキギ科。

【哺乳類・昆虫】

寒さが厳しくなると、生き物の姿を探すのは大変である。越冬の能力を持つ動物は姿を消し、厳しい冬を食つなぐ動物も、黙々と雪の中の食物を探し続ける。



エゾシカ (コッタロ湿原)
湿原の山裾ではエゾシカの群れが雪の下に隠れた食物を探していた。鯨偶蹄目シカ科



キタキツネ (クチョロ線)
食べる物が少なくなる冬は、雪上を歩く野鼠などの小動物を探している事が多い。キツネ科。



ミドリシジミ卵 (塘路湖畔)
湿原を代表する木、ハンノキなどの細枝に産みつけられている越冬卵。シジミチョウ科。

◎氷上スノーシューハイキング～塘路湖とアイヌ文化～

1月13日は、全面結氷した塘路湖の氷上をスノーシューで散策し、野鳥を観察したり、氷丘脈（御神渡り）が形成されている場所を目的地とし、そのダイナミックな造形と、塘路湖の地形を利用したアイヌのチャシ（城砦）跡を観察するイベントを実施しました。

北風がやや強めの青空の下、スノーシューを装着して結氷した塘路湖畔に下り出発。スタートして15分しないうちにオジロワシの旋回が見られ、さらに10分ほど移動すると樹上で休むオオワシの姿を観察できました。

スタートして1時間ほどで氷丘脈（御神渡り）に到達し、圧倒的な規模の氷の造形が参加者を驚かせました。併せてアイヌ民族のチャシ（城砦）跡の地形や、チャシの役割や用途についての解説もありました。折り返す時間帯には湖のさらに遠くで氷原を疾走するエゾシカの群れが参加者を見送ってくれました。参加者 15名



上：氷上ハイクを楽しむ皆さん
左下：オオワシ 右下：氷丘脈

◎雪中の塘路湖畔で野鳥観察

12月16日(土)は、塘路湖周辺で野鳥観察会を行いました。当日は小雪が降る続く条件ながら無風のコンディションでした。前半はフィトンチッドの森にて留鳥を探しました。シロハラゴジュウカラなどのカラ類のほか、エゾコゲラやエゾアカゲラ等のキツキ類を確認しました。野鳥が出てくるまでの合間はアイヌの狩猟方法や、シマエナガとエゾアカゲラの関係、渡り研究の歴史について解説をしました。後半は雪が積もった塘路湖に降り立ち、凍結した湖畔を歩きながらヒヨドリのつがいや氷上にたたずむアオサギ、ダイサギを確認しました。最後はオオワシの若鳥を樹上に発見し、飛翔する姿を見届けて観察会を締めくくることができました。 確認種 10種類参加者 7名



2月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

蝶の森スノーシューハイク

[日 時] 2月3日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] シラルトロ湖畔・蝶の森周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原の裏山でスノーシューハイク

[日 時] 2月11日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 12/15(6:47,15:46). 12/31(6:54,15:54).1/14(6:52,16:09)

～指導員のひとり言～

■今季は暖冬との予想で、塘路湖の結氷は個人的に少し遅れるであろうとの予想をしていたが、実際は昨年と3日くらいしか違わなかった。11月下旬には岸辺から凍り始め、12月下旬にもなると氷上を歩くことが出来るようになっていた。

新年早々の元日に、能登半島で大きな地震が起きてしまいました。今も多くの被災者の方々が不自由な生活を強いられています。

一刻も早い震災地の復興と、皆さまの健康を、心よりお祈り致します。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL : 015-487-3003 FAX : 015-487-3004
E-mail : emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram  torokoemc

開館時間 : 10 : 00 ~ 16 : 00

(4 ~ 10月 : 17 : 00 まで)

休館日 : 毎週水曜日 12月29日 ~ 1月3日

入館無料